

Forest 通信

H28

8

林野庁 関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター NO.330

巻頭 photo

高尾山の生きものたち

オオムラサキ (タテハチョウ科)

開帳75~100mmの大型のタテハチョウで6~8月まで出現し、過去、木下沢や日影沢などで見かけて撮影もできました。10年前の上記地には多くのチョウ類が生息しておりましたが、近年はその姿を見かける機会が激減です。生息地環境の変化は殆ど見られないのに不思議な事ですが、人間による採集圧が一原因かと思われます。

高尾山は霊山であり、信仰の山です。参道には「殺生禁断」「不殺生戒」の石碑、看板が設置されており、もう一度原点に帰って「生物保護」を考える必要があるのではと痛感します。

今月の一句

「国蝶も 網で取られりゃ 酷蝶だ」



(フォレストサポートスタッフ 大作栄一郎)

二美ちゃん 富ちゃんの 真夏に冬芽の観察



Vol.14



高尾山も深緑に覆われ、多くのハイカーで賑わっている。この時期、樹木の枝を観察すると、枝先や葉の付け根(葉腋)に、新しい芽が出ていることに気付く。これらの芽は、来年に花や葉になるのだが、6月には多くの樹木で葉芽を確認することができた。これらの芽を観察すると、ウリノキは葉柄の中に新芽を形成し、マタタビは葉枕から芽の一部を覗かせ、春に先駆けて咲くアブラチャンは葉芽や花芽をつけている。

これらの芽は、葉の展葉とともに葉の中で作られた植物ホルモンの働きにより新芽が形成され、新芽は夏の終わり頃まで成長し、葉が日照時間の減少を感じると、新芽の成長を抑制する植物ホルモンにより成長が止まる。その後、越冬芽を形成し休眠状態に入り、冬の一定期間の寒さを乗り越え、温暖な気候になると葉や花を開くのである。

このように、長い時間をかけ、用意周到に準備をする樹木の姿から、私たちも学ぶべきものが多いのではないのでしょうか。

真夏に冬芽の観察はいかがですか。(二美)



「森に学ぶ～森づくり

ことづくり 人づくり」

～森林カレッジII～



宮林先生の講義



鎌を研ぐ…まずは道具から

平成28年7月9日（土）に森林カレッジII「森に学ぶ～森づくり、ことづくり、人づくり」を開催しました。あいにくの雨模様ということもあり、参加者は若干減って28名となりました。

午前中は東京農業大学教授、宮林先生の講義「森に学ぶ～森づくり ことづくり ひとつづくり」です。

人間社会は、自然から学び育むことで成長し、生きがいのある地域づくりへとつながっていく・・・といった内容でしたが、講師のウイットに富んだジョークもあり、和やかで笑いに包まれた雰囲気での講義となりました。

午後の作業は雨天のため、林道の草刈りに変更となりました。小雨の中での作業となってしまいましたが、参加者からは「もっと草を刈りたかった」「鎌を研いだのは初めてだったが、とても勉強になった」と好評でした。また、作業を希望されない方への室内プログラムとして「植物の話」も併せて実施しました。植物の話では林道脇に自生している草木をサンプルにして実際の生活に役立つ知識を含めての講義が行われました。「この草にはそんな特徴があったのか」「薬効成分に驚いた」「いつも目にしている植物でも知らないことばかり」など、興味津々の参加者達でした。

今回のカレッジでは終日の雨模様で、スタッフもプログラムの変更等で頭を悩ませたのですが、参加者からは「思い切って参加してよかった」「今後も毎回参加したい」「雨でも可能な限り作業を体験したい」「もっと沢山草刈りをしたかった」といった意見が多く聞かれ、今後のカレッジの運営の参考とすることができました。（磯）



いざ、出発！



上手に刈ることができました！

森 林 教 室

7月27日墨田区の私立両国幼稚園の年長さんが、お泊まり体験行事で高尾森林ふれあい推進センターで森林教室を実施しました。

当日は曇り、高尾山の登山で汗をいっぱいかけた園児達87名が14時30分頃センターに訪れ、2班に別れ交互に「丸太」切りと「ブンブン独楽」作りを体験していきました。園児達は、のこぎりを持つのも、スギの丸太を切るのも初めてで、慎重に切る子や大胆に切る子「この木何の木？」などの質問がでていました。ブンブン独楽作りでは、幾何学模様や顔などを描き個性豊かな独楽を作り、快調に回す子や、全然回らない子もいて、園児は楽しそうにいい思い出作りができたようです。

墨田区 私立両国幼稚園

天真爛漫な園児の笑顔にF S高尾をはじめスタッフ一同も癒やされたイベントでした。(皿)



「夏だ！高尾だ！水遊び！」

「夏だ！高尾だ！水遊び！」と題して7月24日に17家族、大人17名、子供22名の合計39名の方々の参加を得て開催しました。

はじめに絵を使っての水と生き物の関係の解説を実施しました。子供達も熱心に聞いていたので一安心。続いて傍の小川での生き物の観察です。クモに出会いお母さんにしがみついていた女の子がいましたが、いざ川の中に入ると網を片手にサワガニや水生昆虫を夢中で探していました。自然の力は子供の力を引き出せるものをつくづく感じ入った次第です。当日は暑い日差しもなく小川の水温も低かったので、早めに水から上がり、子供達が捕まえた水の生き物をパレットに移し皆で観察をしました。その後、捕まえた生き物たちを子供達の手でリリースし、お弁当タイムになりました。観察中には森の中の猿が私達を観察しているようで妙な気分になりました。

午後から、竹の水鉄砲作りです。子供達は勿論お父さんお母さん達も熱心に取組んでいました。試打ちをして水が出ることを確認し、いよいよメインイベントのペットボトル倒しのゲームです。子供だけの班対抗、親子対抗、そして最後に男子と女子対抗の、それぞれ二回戦を行いました。子供達は大喜び、お父さんお母さんも大声で応援し、私達スタッフも大いに楽しめました。

ご家族の中に昨年も参加し、今年も4倍の難関を突破して参加した親子がいっぱいありました。話を聞くと6年生のお姉さんが、また水鉄砲を作りたいと申し込んだそうです。班別対抗戦では、

高尾森林ふれあい推進センター ～協定イベント～

お姉さんが大活躍し2連勝に貢献していました。でも来年は中学生、あとは弟の4年生に3年連続参加を託すそうです。ゲームが終了し、最後に皆さんの感想を伺い無事解散となりました。参加者皆さんの笑顔のお別れの挨拶が、半年以上の準備をしてきたスタッフ達が報われた素晴らしい瞬間でした。



何がいるかな？

生き物観察中・・・

ゲームに熱中！

(写真・高尾パークボランティア会 鈴木 馨氏)
(文・高尾パークボランティア会 溝部 浩一氏)

三浦雄一郎氏と登る高尾山&記念講演

「山の日」記念

登山&講演に参加!

平成28年から、8月11日が「山の日」として国民の祝日になりました。「山の日」の意義は、「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」とされています。林野庁においても「山や森林・山村に親しむ～感じよう、山の恵み、森の恵み～」をテーマに「山の日」の制定を記念して全国の森林管理局等及び団体等が、各種イベント等を開催しています。当センターも「山の日」を記念してイベント（HP参照）を開催しますので、皆様の参加をお待ちしています。

さて、今回は「山の日」記念行事実行委員会（全国森林レクリエーション協会、日本森林林業振興会、日本森林インストラクター協会）が主催する「三浦雄一郎氏と登る高尾山&記念講演」に当センターも参加しました。梅雨空を心配しましたが、天候にも恵まれ7月19日（火）、記念登山と記念講演に約130名の方々が参加しました。

午前の登山は8班に分かれ、当センターと隣接する、高尾599ミュージアム前をスタートし稲荷山コースを森林インストラクター東京会が同行し、観察ガイドをして頂きながら登山しました。その間、三浦氏は各班を回りながら一緒に登山し、参加者はスナップ写真などを撮られていました。なお、三浦氏のご高齢とは思えぬ健脚ぶりには、参加者一同驚いていました。ただし、本人曰く「近頃はメタボなので疲れました」とポツリ漏らしていました。恐らく当日の暑さに・・・のようでした？

午後は、高尾山薬王院本坊で三浦氏による「山登りの楽しさ～登山が人生を豊かにしてくれる～」をテーマに記念講演があり、少年期から中学、高校、大学そして現代まで、登山やスキーなどに係わった経緯や苦労、思い出や病との戦い話などをユーモアを交えながら講演して頂き、参加者は時間が経つのも忘れ話に聞き入っていました。

最後に来年85歳となる三浦氏は、密かに何かチャレンジを企画しているようでした・・・？（屋）



中央が三浦氏



笑顔いっぱいの記念撮影！
※最前列の左から5人目が三浦さん

※三浦 雄一郎（みうら ゆういちろう）
プロスキーヤー、クラーク記念国際高等学校校長
（株）ミウラ・ドルフィンズ代表取締役
（一社）全国森林レクリエーション協会会長
1932年青森県生まれ。1966年富士山直滑降。
1970年エベレストエベレスト・サウスコル8、
000m世界最高地点スキー滑降。1985年世界7
大陸最高峰のスキー滑降完全達成。2013年80
歳にして3度目のエベレスト登頂に成功・・・など

Forest 通信 No.330

発行：林野庁関東森林管理局高尾森林ふれあい推進センター

【ご意見、ご要望及びイベント情報のお問合せ先】

林野庁 関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター

〒193-0844 東京都八王子市高尾町 2438-1

電話 050-3160-6040 FAX042-663-7229

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/takao/index.html>

編集後記

7月中旬の高尾山周辺は意外と空いている。ゴールデンウィーク前後の喧噪が嘘のような雰囲気。

でも、真夏の高尾山も魅力いっぱい！頂上から都心の眺望を楽しんだ後は、心地よい風を感じながら薬王院の幻想的な雰囲気に浸る・・・って素敵かも（磯）